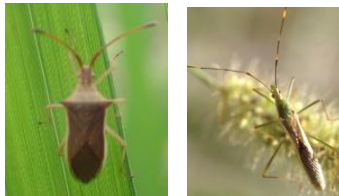


病虫害発生予察情報予報第 4 号 (8 月の予報)

佐賀県農業技術防除センター

6 月 1 日～8 月 31 日の 3 か月間は農薬危害防止運動期間です。
農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理を徹底しましょう。

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病虫害名 ^{注1)}	8月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病虫害 (抜粋)
(早期) 水稻	紋枯病	並	 斑点米カメムシ類
	斑点米カメムシ類	やや多	
(早植え) 水稻	穂いもち	並	
	紋枯病	やや多	
	トビイロウンカ	やや多	
	コブノメイガ	並	
	斑点米カメムシ類	やや多	
(普通期) 水稻	穂いもち	並	 トビイロウンカ
	紋枯病	やや多	
	白葉枯病	並	
	もみ枯細菌病	並	
	トビイロウンカ	やや多	
	コブノメイガ	並	
	フタオビコヤガ	並	
	斑点米カメムシ類	やや多	
水稻全般	1. トビイロウンカ 本年は、断続的に飛来が確認されている。本種の発生状況は、田植え時期、水稻の品種、地域、これまでの防除の違い等によって異なるので、発生予測図（共通-図1）を参考にし、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる（詳細は7月21日付け病虫害対策資料第5号参照）。		

作物名	病虫害名 ^{注1)}	8月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病虫害 (抜粋)
イチゴ (育苗圃)	ハダニ類	やや多	 ハダニ類
	うどんこ病	やや少	
	苗立枯症 (炭疽病・疫病)	並	
	アブラムシ類	やや多	
	1. ハダニ類 本圃での発生を抑えるため、育苗期の防除を徹底する。薬剤防除には、薬剤抵抗性の発達の可能性が低いとされる気門封鎖系薬剤も活用する。ただし、これらの薬剤は卵に対して効果が無いものが多いので、5～7日間隔で2回散布を1セットとし、発生状況に応じて数セット散布する。 2. 苗立枯症（炭疽病、疫病、萎黄病） ランナー切り離し後の親株は、できるだけ早期に処分する。特に炭疽病については、伝染抑制効果が著しく高いビニル雨よけ下で育苗を行い、定期的な薬剤防除を実施する。また、灌水を過度に行うと、高湿度条件が長時間維持され、発病が助長されるため、灌水はその日の天候やポットの乾き具合を考慮して実施する。さらに、発病株の発生を認めた場合は、早急に圃場外に持ち出し適切に処分する。		
アスパラガス	茎枯病	やや少	 ネギアザミウマ
	褐斑病	並	
	斑点病	やや少	
	アザミウマ類	やや多	
	ハダニ類	やや多	
	1. アザミウマ類 今後の発生がやや多いと予想される。虫見板への払い落とし等を行い、発生状況に注意し、早期防除に努める。発生が多い場合は、1週間間隔で2回防除する。 2. ハダニ類 多発生すると防除が困難となるので、発生初期での防除を徹底する。虫見板への払落としを行い、寄生が認められれば直ちに薬剤防除を行う。 3. 褐斑病 晴天時には施設開口部を開放し、通風を図る。特に近年発生が多い褐斑病は、感染から発病まで潜伏期間が 20～30 日と長いことから、発生前からの予防散布を基本とし、発生前から3週間間隔を目安として薬剤防除を実施する（前年多発生圃場及び既発生圃場、降雨日が続く場合は間隔を短縮）。		
野菜・花き 共通	1. チョウ目害虫（ハスモンヨトウ、オオタバコガ、シロイチモジヨトウ） オオタバコガおよびシロイチモジヨトウのフェロモントラップへの誘殺数が平年より多い（農業技術防除センター病虫害防除部ホームページ参照）。また、向こう 1 か月の気象予報では、気温は平年より高いと予想されており、本虫の発生に好適な条件であると予想される。このため、圃場での発生状況に注意し、若齢期での防除に努める。		 シロイチモジヨトウ

作物名	病虫害名 ^{注1)}	8月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病虫害 (抜粋)
果樹全般	果樹カメムシ類	並	 チャバネアオカメムシ
	1. 果樹カメムシ類 果樹園への飛来時期は9月頃と予想されるが、地域によっては早期に果樹園へ飛来し、被害を及ぼす可能性があるため、園内外をこまめに見回り、早期発見、早期防除に努める。 2. スピードスプレーヤーによる薬剤散布 全列走行を基本とする。また、薬液が到達しにくい園周縁部等は手散布を実施するなど、丁寧に散布する。		
カンキツ	かいよう病	並	 チャノキイロアザミウマ
	黒点病	やや少	
	ミカンハダニ	やや多	
	チャノキイロアザミウマ	やや多	
	1. アザミウマ類 チャノキイロアザミウマによる後期被害を防ぐために、8月中旬～9月上旬頃の防除を徹底する。また、近年ミカンキイロアザミウマやハナアザミウマ類による着色期の果実被害が多くなっているため、発生源となる園内及び園周囲の雑草は、着色期前までに除草を行う。 2. かいよう病 台風の襲来等強風雨が予想される場合、本病が発生しやすい園および幼木園では、襲来7日前～前日までに必ず薬剤防除を行う。 3. ミカンサビダニ 新たに被害が確認された場合は早急に防除を行う。		
ナシ	ナシヒメシンクイ	やや多	 ハダニ類
	ハダニ類	やや多	
	1. ハダニ類 園内をよく観察し、低密度時からの防除を徹底する。特に、園周縁部などスピードスプレーヤーによる散布で薬液がかかりにくい部分では、手散布を実施するなどして防除の徹底を図る。 2. 夜蛾類 被害を防止するため、忌避灯を点灯する時間及び点灯時の園内の明るさに注意する。		
ブドウ	べと病	並	 べと病
	褐斑病	並	
1. べと病、褐斑病 これらの病害が発生している圃場では、防除を徹底する。			

作物名	病虫害名 ^{注1)}	8月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病虫害 (抜粋)
茶	カンザワハダニ	やや多	 チャノミドリヒメヨコバイ幼虫
	クワシロカイガラムシ	やや多	
	チャノキイロアザミウマ	やや多	
	チャノミドリヒメヨコバイ	多	
	チャノコカクモンハマキ	並	
	チャノホソガ	並	
	炭疽病	やや多	
	輪斑病	並	
1. カンザワハダニ 生息部位である葉裏へ薬液が十分にかかるように丁寧に散布する。また、薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤は年一回の使用とする。			
2. チャノミドリヒメヨコバイ 発生が平年より多くなっている。秋期の発生を抑えるため、秋芽萌芽期～開葉初期に防除を実施する。多発生園では、さらに一週間後を目安に、追加防除を行う。なお、同一系統の薬剤は連用しない。			
3. 炭疽病 一部園場で発生が多い。本病は雨滴により新芽に感染するため、開葉初期の予防散布を実施する。			
4. チャトゲコナジラミ 多発した茶園では、葉裏に薬剤が付着しやすいように、裾刈り等を行った後に防除を行う。成虫期防除は効果が劣るため、園内の発生状況をよく観察して、成虫が見られなくなった頃(若齢幼虫期)に防除を実施する。			

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「佐賀県病虫害防除のてびき」も参照してください。

佐賀県病虫害防除のてびき掲載アドレス

https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00321928/index.html

QRコード→



Ⅱ. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平成（過去 10 年間）と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
○ 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、（－）：少発生、（－～±）：やや少発生、（±）：並発生、（±～＋）：やや多発生、（＋）：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（4 ページの注釈にリンクが有ります）。

写真

- 1～4 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
6 ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

8 月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する 8 月の気象条件については、福岡管区気象台発表の 1 ヶ月予報（令和 4 年 7 月 21 日）を基に、「気温：平成より高い」、「降水量：平成並」と判断しています。

気象予報による要素別確率（％）及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	1 ヶ月予報における 8 月の気象予報（確率予報％）			病害虫の発生に関与する気象条件（平成比）
	低い(少ない)	平成並 (佐賀市の平成値)	高い(多い)	
気温	20	30 (28.2℃)	50	高い
降水量	40	30 (252.4 mm)	30	並

Ⅲ. 8月の予報

水稻（早期、上場地域）

[【概要に戻る】](#)

定期調査：12 圃場

調査日：7月15日

1. 紋枯病

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率 0.7%（平年1.4%、前年0.3%）

平年比：やや少（－～±）

(2) 8月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、多発生の条件〈＋〉

3) 防除上注意すべき事項

各圃場での発生状況を確認し、病斑が上位3葉の葉鞘に達している場合は直ちに薬剤防除を行う。



定期調査圃場の様子（早期水稻）

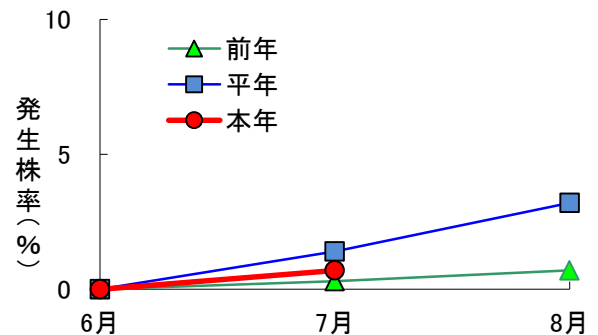


図1 早期水稻での紋枯病の発生推移

2. 斑点米カメムシ類

水稻（早植え）の斑点米カメムシ類の項参照。

水稻（山間早植え）

[【概要に戻る】](#)

定期調査：12 圃場

調査日：7月13日

1. 穂いもち

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）【葉いもち】

発生株率 0.7 %（平年5.7%、前年7.0%）

平年比：やや少（－～±）

(2) 8月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 進展型病斑がみられる圃場では早急に薬剤防除を行う。

(2) 葉いもちの発生がみられる圃場では、穂ばらみ期の防除を実施する。発生が多いと予想される場合には穂揃い期にも薬剤防除を行う。



定期調査圃場の様子（早植え水稻）

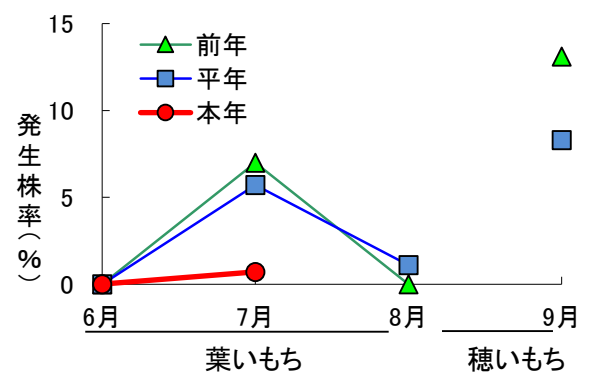


図1 山間早植え水稻でのいもち病の発生推移

2. 紋枯病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率 0%（平年 0.1%、前年 0%）

平年比：並（±）

(2) 8月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

本病の発生が見られる圃場では、病斑が上位の葉鞘に進展する前に防除を行う。

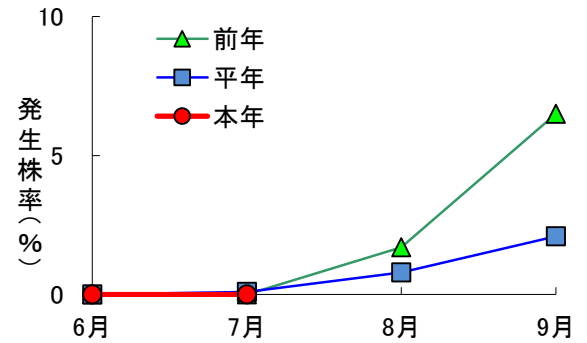


図1 山間早植え水稻での紋枯病の発生推移

3. トビイロウンカ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) トビイロウンカの飛来状況

6月23～25日頃、7月8日頃、7月19日頃に飛来を確認しており、嬉野市のライトトラップでの6月1日から7月20日（本年は19日）までの総捕獲数は（共通-表1）、10年間で、2番目に多い。〈±～+〉

(2) トビイロウンカの発生状況

① 定期調査（図1参照）

発生株率 0%（平年 0.1%、前年 0%）

平年比：並（±）

(3) 8月の気象予報

気温は高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照。

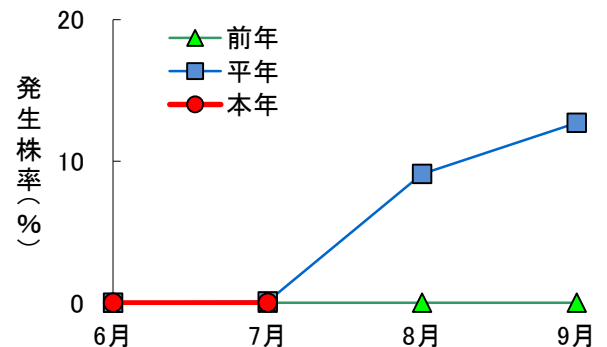


図1 山間早植え水稻でのトビイロウンカの発生推移

4. コブノメイガ

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) これまでの飛来状況

これまで、各トラップへの誘殺を確認していない（共通-表1）。〈-～±〉

(2) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率 0%（平年 2.0%、前年 0%）

平年比：やや少（-～±）

(3) 8月の気象予報

気温は高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

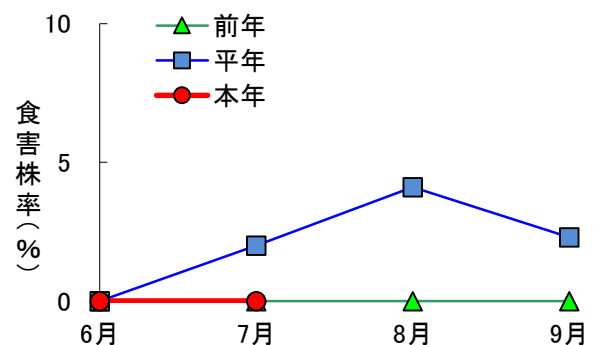


図1 山間早植え水稻でのコブノメイガの発生推移

- (1) 止葉を含む上位3葉への被害を防止するため、必ず圃場ごとの発生状況を確認し、発蛾最盛期の7日後（幼虫ふ化揃い期）に防除を実施する。

5. 斑点米カメムシ類(クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ類、アカスジカスミカメ、ミナミアオカメムシ等)

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

- (1) イネ科雑草での捕虫網によるすくい取り調査（7月13～20日）

発生量は、平年並（表1）。〈±〉

- (2) 8月の気象予報

気温は高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 水稻の出穂10日前までに、畦畔を含めて除草を行う。

- (2) 乳熟期（穂揃い期の約10日後）を中心に薬剤防除を行う。多発生の場合は穂揃い期とその7～10日後に薬剤防除を行う。

表1 斑点米の原因となるカメムシ類のイネ科植物におけるすくい取り調査結果
20回すくい取り虫数(2022年7月13日～20日)

調査地点	場所	草種	クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		シラホシカメムシ類		アカスジカスミカメ		ミナミアオカメムシ
			成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	
佐賀市西与賀	道端	イ/コロク ⁺ サ類	0	0	0	0	0	0	2	0	0
佐賀市川副町	道端	イ/コロク ⁺ サ類	0	0	0	0	1	0	0	0	0
唐津市肥前町	空地	イ/コロク ⁺ サ類	1	6	1	2	0	0	0	0	0
伊万里市松浦町	道端	イ/コロク ⁺ サ類	1	0	0	1	2	0	5	4	0
武雄市	道端	イ/コロク ⁺ サ類	0	0	0	0	1	0	0	0	0
鹿島市	道端	ヒ、イ/コロク ⁺ サ類	0	0	0	0	0	0	39	0	0
小城市三日月町	道端	イ/コロク ⁺ サ類	0	3	7	1	1	12	12	0	0
神崎市神埼町	道端	イ/コロク ⁺ サ類	1	6	2	0	0	0	6	9	0
神崎市千代田町	道端	イ/コロク ⁺ サ類	2	2	0	0	0	0	8	7	0
白石町遠江	道端	イ/コロク ⁺ サ類	1	3	2	0	0	0	55	20	0
白石町有明	道端	イ/コロク ⁺ サ類	0	0	4	0	0	0	3	0	0
本年（平均）			0.5	1.8	1.5	0.4	0.5	1.1	11.8	3.6	0.0
平年（過去10年の平均）			2.8	3.0	1.2	0.4	0.2	0.5	15.1	9.0	0.03
前年（平均）			1.3	1.4	1.8	0.5	0.0	0.0	28.9	17.5	0.0

水稻（普通期）

[【概要に戻る】](#)

定期調査：48 圃場

調査日：7月13日～20日



定期調査圃場の様子（普通期水稻）

1. 穂いもち

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）【葉いもち】

発生株率 0.2%（平年2.5%、前年 0%）

平年比：やや少（～±）

(2) 感染好適条件発生状況【県内、隣接県 計10地点】

BLASTAM（7月6日～20日）では、準感染好適条件が、7月9日、15日、16日に出現した（表1、図2）。

（±）

(3) 8月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

水稻（山間早植え）の穂いもちの項参照。

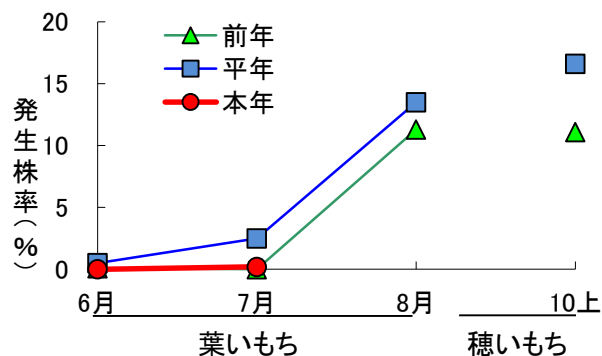


図1 普通期水稻でのいもち病の発生推移

表1 BLASTAMによる葉いもち感染好適条件の出現状況(2022年)

月	日	佐賀					福岡			長崎	
		唐津	伊万里	佐賀	嬉野	白石	前原	大宰府	久留米	松浦	佐世保
7月	6日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	7日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	8日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	9日	-	3	-	3	-	-	3	-	-	-
	10日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	11日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	12日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	13日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	14日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	15日	3	-	-	3	-	-	-	3	-	-
	16日	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
	17日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	18日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	19日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

1: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満)

2: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上)

3: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤期間中の平均気温が15～25℃の範囲外)

4: 準好適条件(湿潤時間が湿潤期間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い)

●: 好適条件(湿潤時間が長く気温も適当で、葉いもちの感染好適条件が出現した)

—: 好適条件の出現なし

?: 判定不能

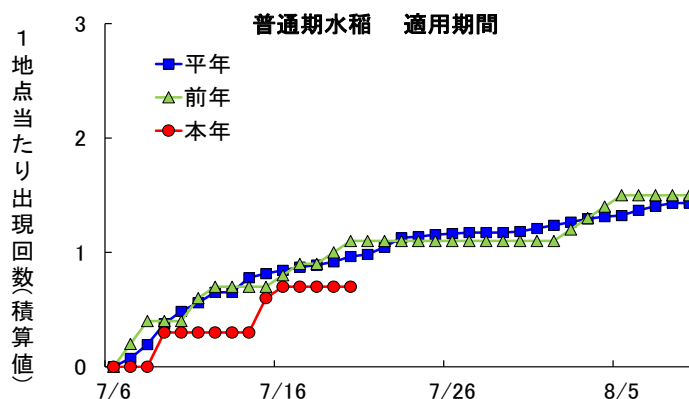


図2 BLASTAMによる準感染・感染好適条件の出現回数
（6月16日移植の場合：適用期間7月6日～8月9日）

2. 紋枯病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1参照)

発生株率 0% (平年0.01%、前年0%)

平年比：並 (±)

(2) 8月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 本病が発生している圃場では、病斑が上位葉の葉鞘に進展する時期（液剤、粉剤の場合は出穂10～20日前を目安とする）に防除を行う。

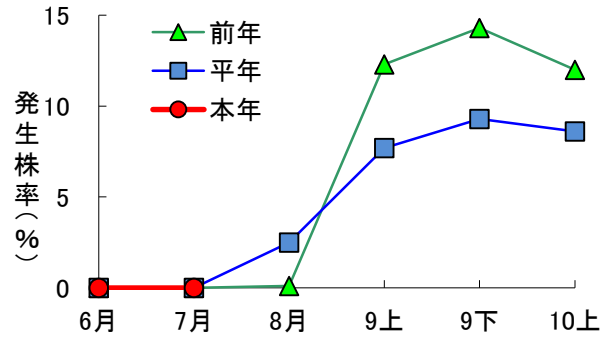


図1 普通期水稻での紋枯病の発生推移

3. 白葉枯病

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の内容

(1) 発生の現況

① 定期調査

発生株率 0% (平年0.0%、前年0%)

平年比：並 (±)

(2) 8月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 昨年、発生がみられた圃場では発生に注意する。

(2) 台風等の強風雨後に発生しやすい。発生した場合には拡大を防ぐため葉が乾くまで圃場に入らない。

4. もみ枯細菌病

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 8月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

気象予報に留意し、開花期間中に降雨が予想される場合は、出穂前後3日の間に防除を行う。特に、苗床で発生した圃場では、確実に実施する。

5. トビイロウンカ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) トビイロウンカの飛来状況

6月23～25日頃、7月8日頃、7月19日頃に飛来を確認しており、嬉野市のライトトラップでの6月1日から7月20

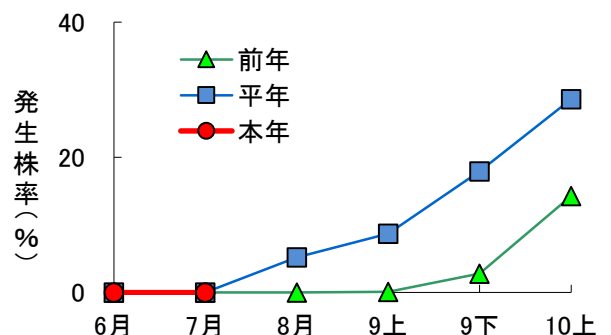


図1 普通期水稻でのトビイロウンカの発生推移

日(本年は19日)までの総捕獲数は(共通-表1)、10年間(2013～2022年)の中で、2番目に多い。〈±～+〉

(2) トビイロウンカの発生状況

① 定期調査(図1参照)

発生株率 0% (平年0.01%、前年0%)

平年比: 並 〈±〉

(3) 8月の気象予報

気温は高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照。

6. コブノメイガ

1) 予報の内容

発生量: 平年並

2) 予報の根拠

(1) これまでの飛来状況

これまで、各トラップへの誘殺を確認していない(共通-表1)。〈ー～±〉

(2) 発生の現況

① 定期調査(図1参照)

発生株率 0.3% (平年1.5%、前年0%)

平年比: 並 〈±〉

(3) 8月の気象予報

気温は高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 水稻(早植え)のコブノメイガの項参照。

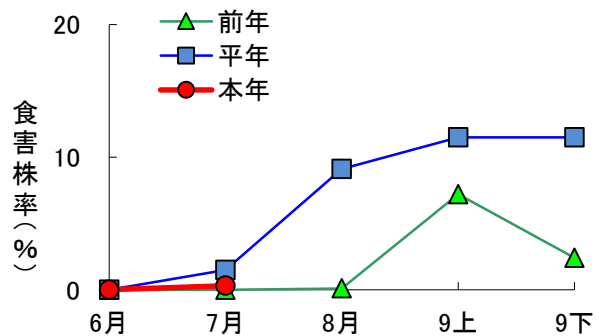


図1 普通期水稻でのコブノメイガの発生推移

7. フタオビコヤガ(イネアオムシ)

1) 予報の内容

発生量: 平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査

発生株率 0% (平年0.02%、前年0%)

平年比: 並 〈±〉

(2) 8月の気象予報

気温は高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

8月中～下旬頃に圃場における発生状況を確認し、上位葉に多数の幼虫が認められる場合には防除を実施する。

8. 斑点米カメムシ類

水稻(早植え)の斑点米カメムシ類の項参照。

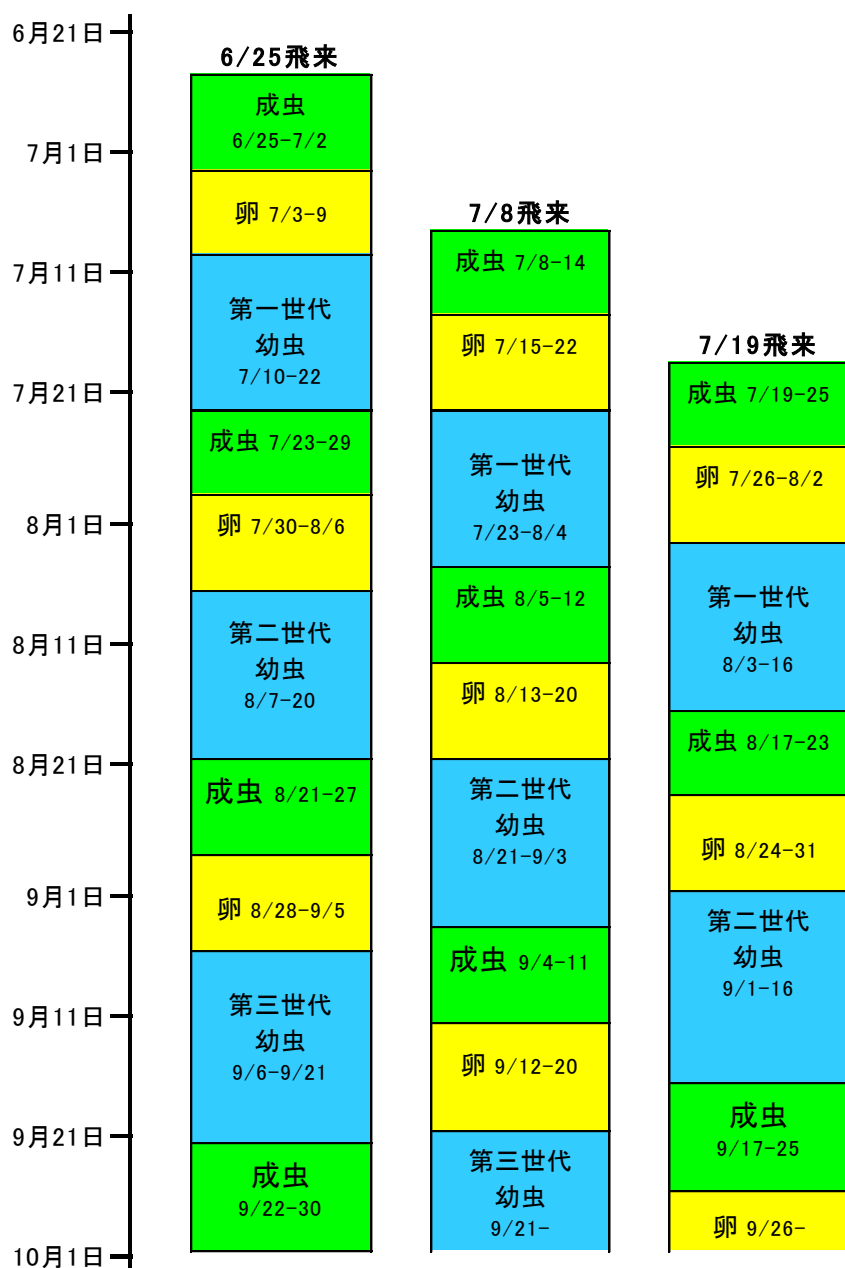
共通一表1 イネウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況(2022年)

月	日	トビイロウンカ					セジロウンカ					コブノメイガ							
		佐賀県		長崎県			佐賀県		長崎県			佐賀県				長崎県		ネット トラップA	ネット トラップB
		佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	佐賀市	神埼市	伊万里市	白石町	武雄市		
		ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップA	ネット トラップB	ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップA	ネット トラップB	フェロモン トラップA	フェロモン トラップB	粘着トラ ップ(20W 蛍光灯)	粘着トラ ップ(20W 蛍光灯)	粘着トラ ップ(20W 蛍光灯)	粘着トラ ップ(20W 蛍光灯)		
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0								
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0								
	3日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0	0	0	
	4日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0							0	
	5日	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0							0	
	6日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							1	
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0	0	0	
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							1	
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							4	
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0	-	0	4	0
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							0	0
	12日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							4	0
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							0	0
	14日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0			0	0	-	0	0	0
	15日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0							0	0
	16日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							0	0
	17日	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0	0	0	0
	18日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							0	0
	19日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0							0	0
	20日	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0							1	0
	21日	0	0	0	0	0	2	0	11	0	0			0	0	0	0	0	0
	22日	0	2	0	0	0	5	1	1	1	0							0	0
	23日	1	0	0	0	0	4	0	0	0	0		0					0	0
	24日	1	7	0	0	0	3	2	1	2	1		-					0	0
	25日	41	0	0	0	0	18	3	1	0	0		0	0	0	0	0	2	1
	26日	1	0	0	0	0	2	2	0	0	0		0					0	0
	27日	65	0	0	0	0	1	8	0	0	0		0					0	0
	28日	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0		0	0	0	0	0	0	0
	29日	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0		0	0	0	0	0	0	0
	30日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0					1	0
7月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		0	0	0	0	0	0	0
	2日	-	0	0	0	0	-	0	0	0	0		-					0	0
	3日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0					0	0
	4日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0					1	0
	5日	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
	6日	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		0					0	0
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0					0	0
	8日	0	36	0	0	0	0	71	5	0	0		0	0	0	0	0	0	0
	9日	-	2	0	0	0	-	9	3	0	0		-					0	0
	10日	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0		0					0	0
	11日	0	1	0	0	0	0	41	0	0	0		0					0	0
	12日	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0		0	0	0	0	0	1	0
	13日	0	0	0	0	0	0	4	2	0	0		0					1	2
	14日	0	0	0	0	0	1	9	3	0	0		0					1	1
	15日	0	5	0	0	0	0	10	9	0	0		0					3	1
	16日	0	7	0	0	0	0	4	16	1	0		0	0	0	0	0	0	1
	17日	0	4	0	0	0	0	2	8	0	0		0					5	5
	18日	0	2	0	0	0	0	1	1	0	0		0					1	1
	19日	113						74					0						
	20日												0						

注1)ウンカ類:佐賀市のネットトラップは、農業試験研究センターで調査。嬉野ライトトラップ(予察灯)は農業技術防除センターで調査。

注2)コブノメイガ:神埼市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。

※長崎県のデータは、長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室提供。



共通-図1 トビイロウンカ各世代の発生予測（第3版、2022年7月20日作成）

1. 6月23～25日頃(図では6月25日)、7月8日頃、7月19日頃の飛来虫を起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度(7月20日以降は平年値)を基に作成した。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の飛来状況や気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

イチゴ（育苗圃）

[【概要に戻る】](#)

定期調査：10 圃場
調査日：7 月 13～20 日



定期調査圃場の様子

1. ハダニ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図 1 参照）
発生株率：9.2%（平年 7.2%、前年 8.0%）
平年比：並（±）
 - ② 8 月の気象予報
気温は高く、降水量は並で、多発生の条件（+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。
 - (2) その他については、特記事項を参照。

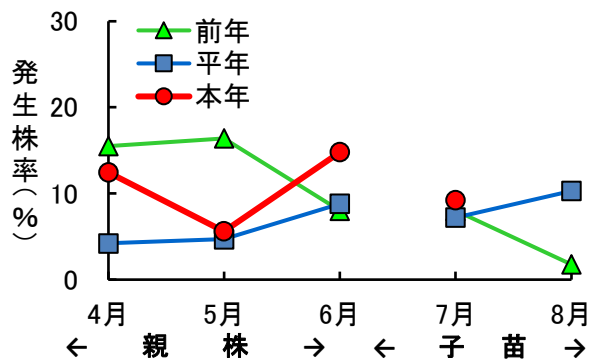


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2. うどんこ病

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや少ない
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図 1 参照）
発生株率：0%（平年 9.6%、前年 2.2%）
平年比：やや少（-～±）
 - ② 8 月の気象予報
気温は高く、降水量は並で、並発生の条件（±）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 定期的な薬剤防除を実施する。

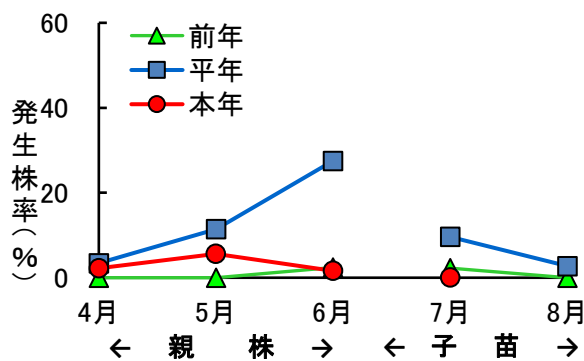


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

3. 苗立枯症（炭疽病・疫病）

- 1) 予報の内容
発生量：平年並
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図 1 参照）
発生株率：0%（平年 0%、前年 0%）
平年比：並（±）
 - ② 8 月の気象予報
気温は高く、降水量は並で、並発生の条件（±）

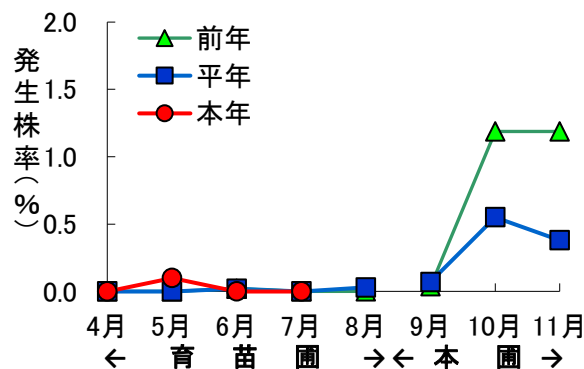


図1 イチゴ立枯症の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

4. アブラムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率：1.6% (平年 1.0%、前年 0.9%)

平年比：やや多 (±~+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 圃場周辺の雑草は本虫の発生源となるため、除草を行う。

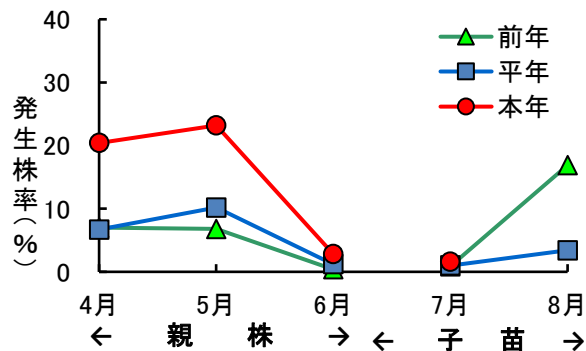


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移

アスパラガス

[【概要に戻る】](#)

定期調査：8 圃場

調査日：7 月 13~21 日



定期調査圃場の様子

1. 褐斑病

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率：0.6% (平年 2.7%、前年 0%)

平年比：やや少 (ー~±)

(2) 8月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

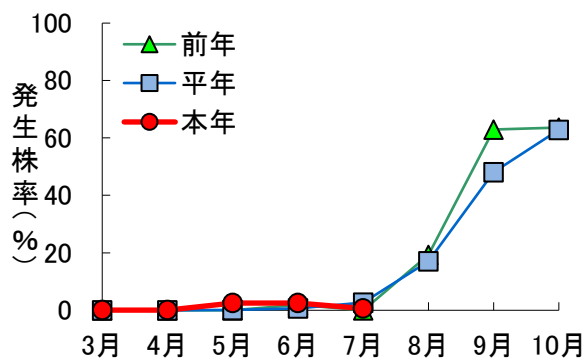


図1 アスパラガス褐斑病の発生推移

2. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率：35.0% (平年 23.2%、前年 40.0%)

平年比：やや多 (±~+)

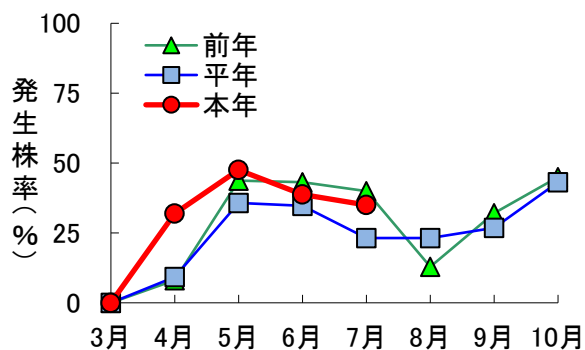


図1 アスパラガスでのアザミウマ類の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

3. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1 参照）

発生株率：0.6%（平年 2.7%、前年 0%）

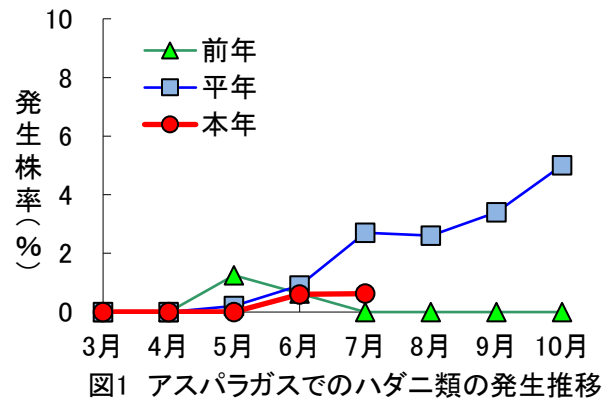
平年比：並（±）

(2) 8月の気象予報

気温は高く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。



果樹全般

[【概要に戻る】](#)

1. カメモシ類

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 6月1半旬～7月4半旬までの誘殺量

① 予察灯（図1 参照）

平年比：少（-）

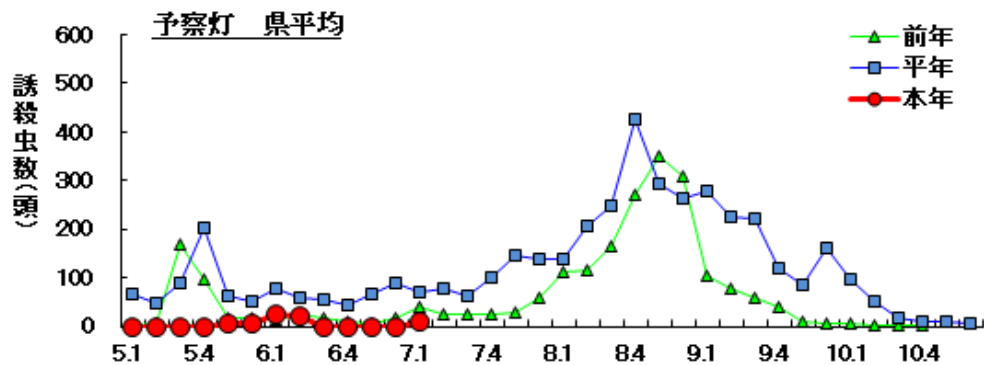


図1 予察灯（佐賀市、小城市）による果樹カメモシ類の平均誘殺数の推移

② フェロモントラップ（図2 参照）

平年比：少（-）

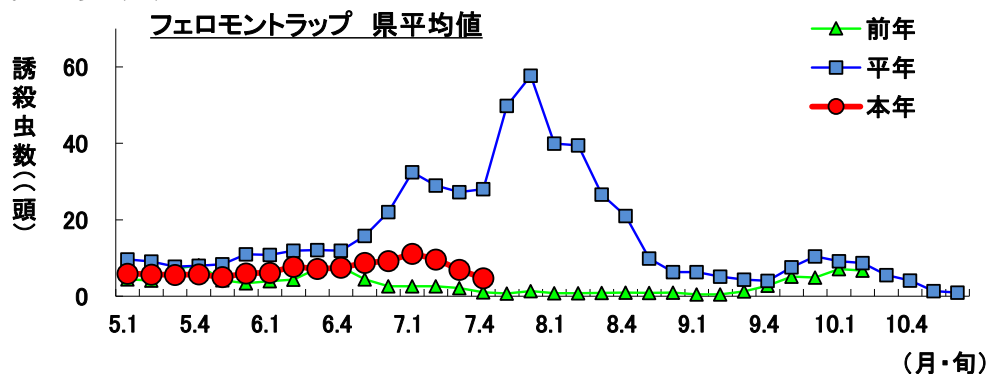


図2 フェロモントラップ（小城市、鹿島市、伊万里市、唐津市浜玉町、唐津市鎮西町、基山町、太良町）による果樹カメモシ類の平均誘殺数の推移

(2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹カメムシ類は、樹高の高い樹木に一旦飛来し、その後果樹園に飛来する傾向があるので、防風樹等は必要以上に高くないよう剪定をする。
- (2) 合成ピレスロイド剤等を散布するとハダニ類やカイガラムシ類の異常増殖(リサージェンス)を生じる場合があるので、これら害虫の防除対策も実施する。
- (3) その他特記事項を参照

カンキツ

[【概要に戻る】](#)

定期調査：7 圃場

調査日：7 月 19～20 日

1. かいよう病

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図 1、2 参照)

発生葉率：0% (平年 0%、前年 0%)

平年比：並〈±〉

発生果率：0% (平年 0%、前年 0%)

平年比：並〈±〉

(2) 8月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 前年に発生した園や風当たりが強い園、罹病性品種(ネーブル、はるみ等)の植栽園、新梢の伸長が遅くまで続く園(幼木園、高接園、隔年交互結実栽培園等)では、無機銅水和剤(クレフノン 200 倍加用)で定期的に防除を行う。散布間隔の目安は 20～25 日とする。

- (2) 無機銅水和剤にマンゼブ水和剤を混用すると無機銅水和剤の防除効果が低下するので控える。

- (3) 発病した枝や葉は伝染源となるため除去し、処分する。ただし、強剪定は枝を遅くまで伸長させ、本病にかかりやすい期間を長くするため行わない。

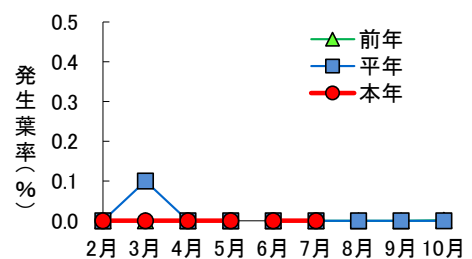


図1 カンキツかいよう病の発生推移

注) 5月下旬までは旧葉を調査

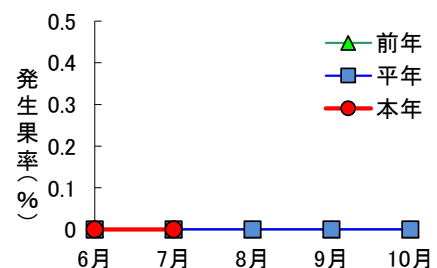


図2 カンキツかいよう病(果実)

の発生推移

2. 黒点病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図 1 参照)

発生果率：0% (平年 4.9%、前年 0%)

平年比：やや少〈ー～±〉

(2) 8月の気象予報

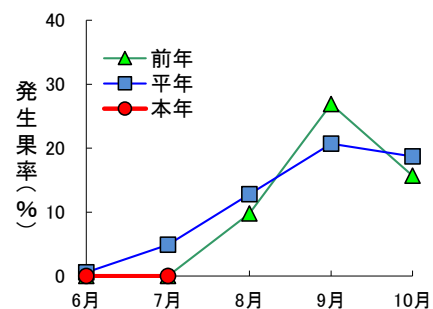


図1 カンキツ黒点病の発生推移

降水量は並で、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) マンゼブ水和剤散布後の次回散布時期は、積算降雨量が200～250mm（マシン油乳剤を6月に加用した場合は300～400mm）に達した時点を目安とする。ただし、同雨量に達しない場合でも、散布後1ヶ月を目途に次の散布を行う。
- (2) 枯れ枝や剪定枝は伝染源となるため除去し処分する。園内に残った切り株は伐根するか、ビニルの袋などで全体を覆って病原菌の胞子が飛散するのを防ぐ。

3. ミカンハダニ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生葉率：0.7%（平年2.5%、前年1.4%）

平年比：並〈±〉

(2) 8月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 低密度時（寄生葉率30%未満または1葉当たりの雌成虫数が0.5～1頭未満）からの薬剤防除を徹底する。
- (2) マシン油乳剤を7月以降に使用すると果実腐敗の発生を助長したり、糖度の低下を招いたりする場合があるので使用しない。

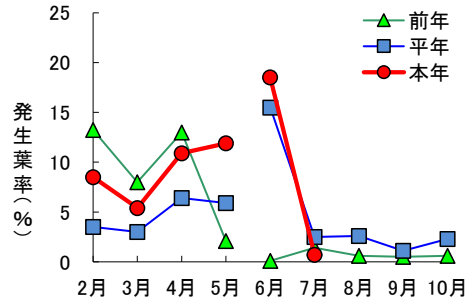


図1 ミカンハダニのカンキツでの発生推移

注) 5月下旬までは旧葉を調査

4. チャノキイロアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生果率：0%（平年0.0%、前年0%）

平年比：並〈±〉

② 黄色粘着トラップ（図2参照）

平年比：並〈±〉

(2) 8月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照。

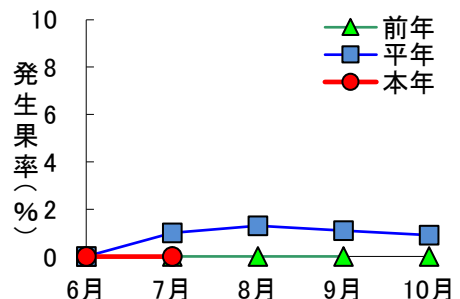


図1 チャノキイロアザミウマによる

被害果の発生推移

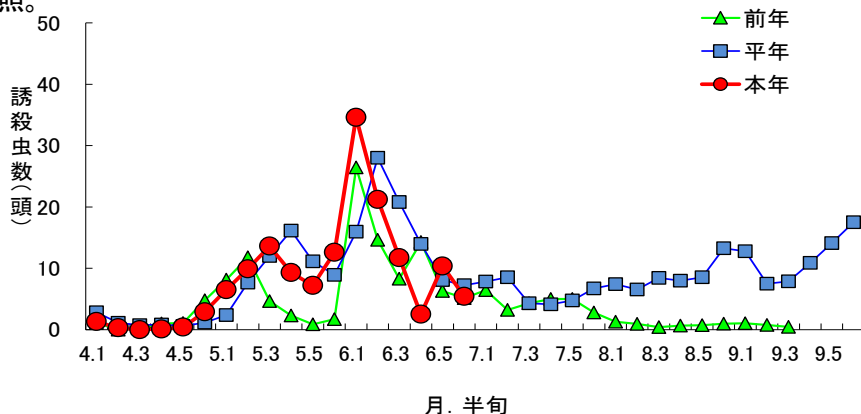


図2 黄色粘着トラップによるチャノキイロアザミウマの誘殺数の推移（小城市 果樹試験場調査）

定期調査：8 圃場

調査日：7 月 21 日

1. ナシヒメシンクイ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①ナシ園地に設置したフェロモントラップ（図1 参照）

平年比：やや多（±～+）

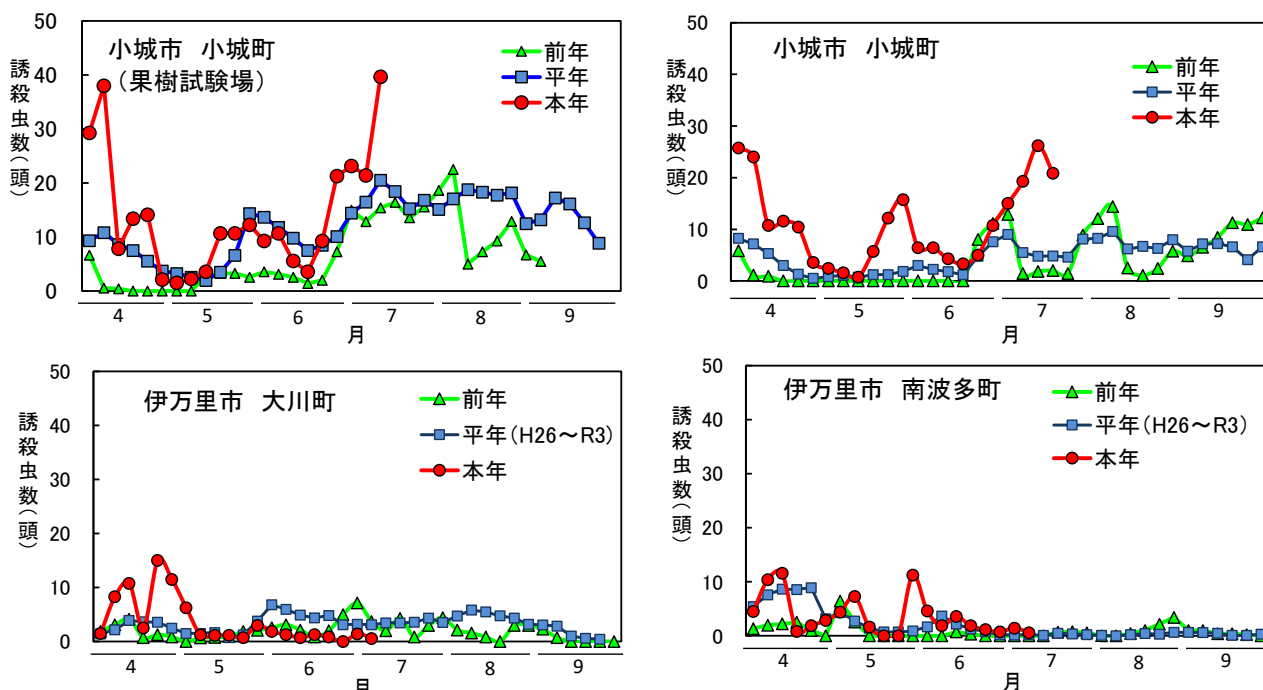


図1 フェロモントラップによるナシヒメシンクイの誘殺数の推移
(果樹試験場、西松浦地域振興センター調査)

(2) 8 月の気象予報

気温は高く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 7 月以降は世代が混在するため、7～10 日間隔で薬剤散布を行う。
- (2) 交信攪乱フェロモン剤設置園においても、10～14 日間隔で薬剤防除を行う。

2. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1 参照）

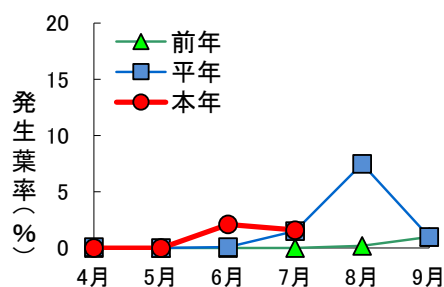


図1 ハダニ類のナシでの発生推移

発生葉率：1.6%（平年 1.5%、前年 0%）

平年比：並（±）

(2) 7月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 低密度時（寄生葉率 10%未満または1葉当たりの雌成虫数が0.5～1頭未満）からの防除を徹底する。

(2) 殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を避けるため、同系統の薬剤は年1回の使用とする。また、前年に使用した殺ダニ剤は使用しない。

ブドウ

[【概要に戻る】](#)

定期調査：6圃場

調査日：7月15～19日

1. ベと病

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生葉率：0.2%（平年 3.0%、前年 3.5%）

平年比：並（±）

(2) 8月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 防除効果を高めるために、棚面の上からも散布する。

(2) ストロビルリン系殺菌剤（アミスターフロアブル、ストロビードライフフロアブル等）に対し耐性菌が発生しているため、本系統薬剤は本病の防除には使用しない。

(3) その他については、特記事項を参照。

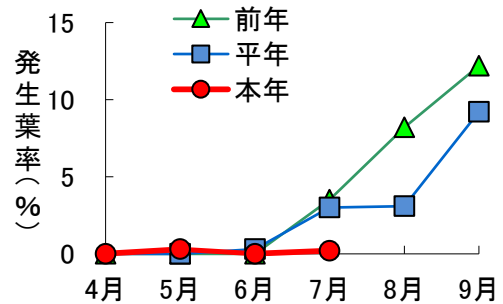


図1 ブドウベと病の発生推移

茶

[【概要に戻る】](#)

定期調査：7圃場

調査日：7月15～19日



定期調査圃場の様子

1. カンザワハダニ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生葉率：0.9%（平年0.9%、前年2.4%）

平年比：並（±）

(2)8月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1)特記事項参照。

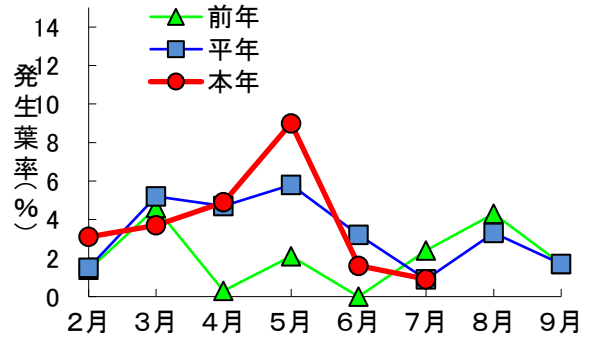


図1 カンザワハダニの茶での発生推移

2. クワシロカイガラムシ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1)発生の現況

①定期調査

発生株率（雄繭）：20.0%（平年7.0%、前年0%）

平年比：やや多（±～+）

(2)8月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 8月は成虫の発生時期であるため、園内の発生状況をよく観察し、9月の幼虫ふ化最盛期に防除を行う。

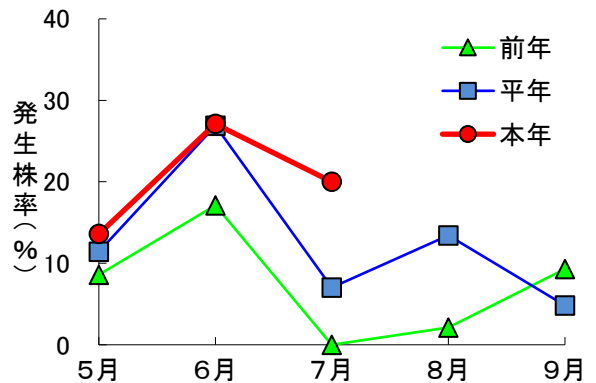


図1 クワシロカイガラムシ(雄繭)の茶での発生推移

3. チャノキイロアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1)発生の現況

①定期調査（図1参照）

虫数：17.4頭/4ヶ所（平年16.7頭、前年37.4頭）

平年比：並（±）

②吸引粘着トラップ（図2参照）

平年比：並（±）

(2)8月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1)幼虫は葉裏に生息することが多いため、葉裏へ薬剤が十分にかかるように丁寧に散布する。

(2)薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

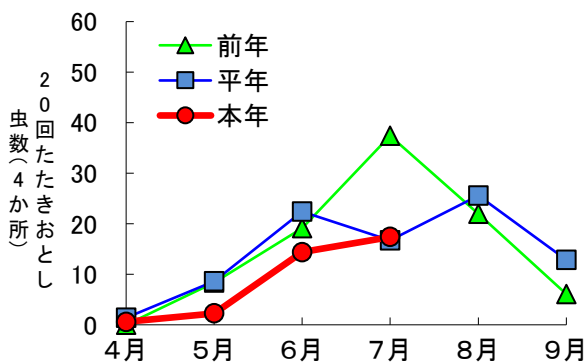


図1 チャノキイロアザミウマの茶での発生推移

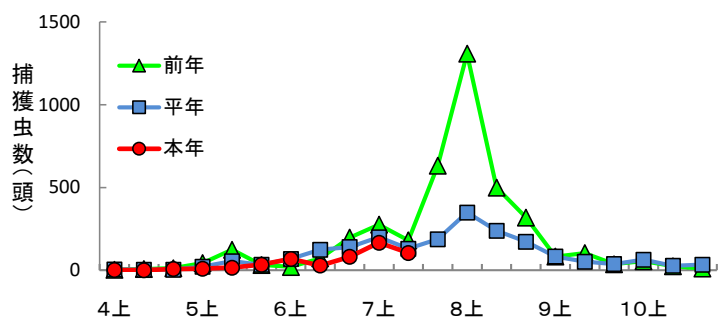


図2 吸引粘着トラップによるチャノキイロアザミウマの旬別捕獲虫数の推移(嬉野市嬉野町、茶業試験場調査)

4. チャノミドリヒメヨコバイ

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1 参照）

虫数：8.9頭/4ヶ所（平年1.7頭、前年1.3頭）

平年比：多〈+〉

(2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照

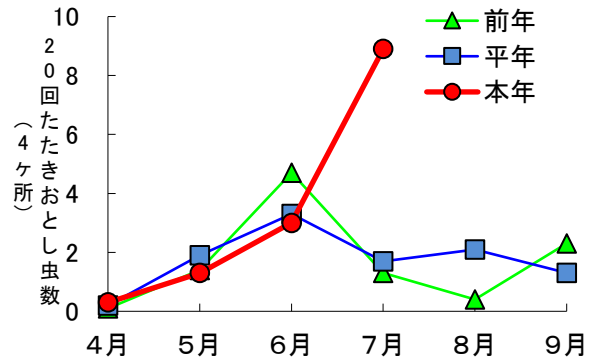


図1 チャノミドリヒメヨコバイの茶での発生推移

5. チャノコカクモンハマキ

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1 参照）

被害葉数：2.9枚/m²（平年2.0枚、前年2.9枚）

平年比：並〈±〉

② フェロモントラップ（図2参照）

平年比：並〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 新葉展開期で幼虫が葉裏に潜行する時期に、薬剤が十分かかるように散布する。発蛾最盛期から1週間後が防除適期である。

(2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

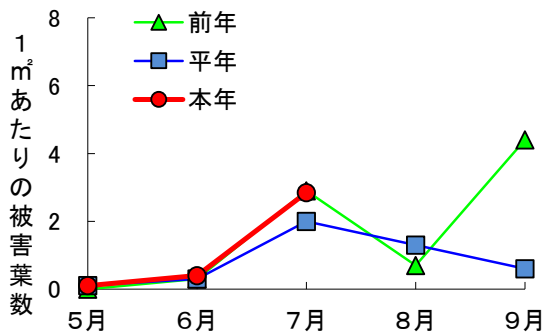


図1 チャノコカクモンハマキの被害葉数の発生推移

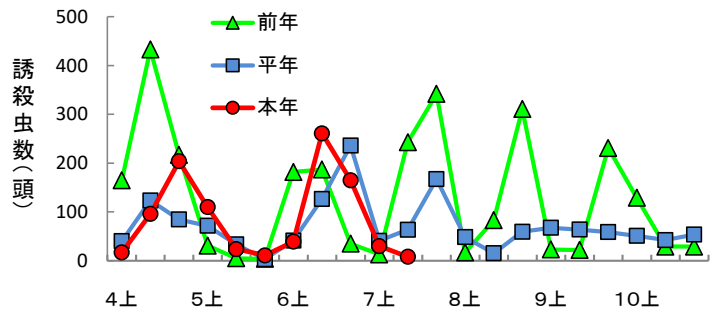


図2 フェロモントラップによるチャノコカクモンハマキの旬別誘殺数の推移（嬉野市嬉野町、茶業試験場調査）

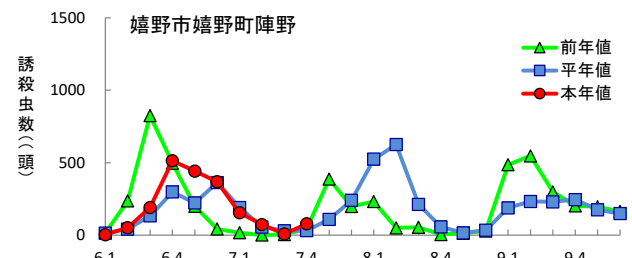
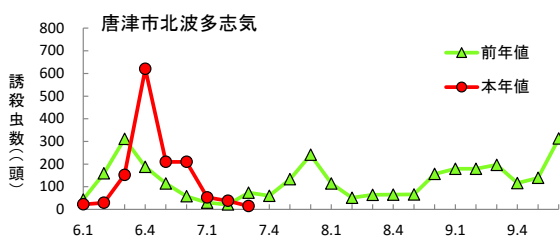


図3 フェロモントラップによるチャノコカクモンハマキの半旬別誘殺数推移（唐津市・嬉野市、防除員調査）

※ 唐津市は、設置場所等を変更しているため、本年値、前年値のみ表示。

7. 炭疽病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1 参照）

発生葉数：10.0 枚/m²（平年 4.2 枚、前年 2.4 枚）

平年比：多〈+〉

ただし、発生は一部圃場に限られる。

(2) 8月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照。

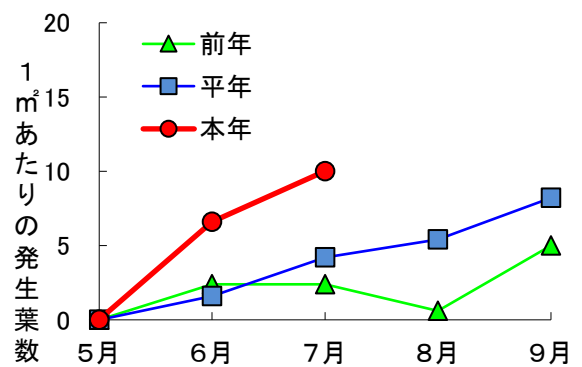


図1 炭疽病の発生葉数の推移

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085

Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

